

「小学校教科書、『分厚い』を『楽しい』に」朝日新聞 2010年4月1日朝刊を読む

小学校教科書、「分厚い」を「楽しい」に

1. 来年春、新学年に進んだ小学生たちは、盛りだくさんになった教科書を手に驚くだろう。その戸惑いを学ぶ喜びにつなげてゆくには、どうすればよいだろうか。
2. 文部科学省の検定をパスした教科書は、いまのものに比べ、どの教科もページ数が大きく増えた。理科や算数は3割以上という変わりようだ。
3. 「ゆとり教育」への批判を背に、2年前に学習指導要領が改められた。基礎的な知識や技能の習得を大事にすることに加え、その知識を活用して問題を解決したり、表現したりする力をつけるよう求めた。授業時間も増やす。
4. 新しい指導要領はまず小学校から適用される。それを受けて、教科書も一気に欲張ったものになったのだ。
5. ページを繰ってみる。台形の面積の出し方(5年算数)など、これまでは「発展的な内容」としてしか取り上げられなかった項目が、全員が学ぶべきこととして復活した。国語では、まだ習っていない漢字も、振り仮名つきで載るようになった。
6. 目立つのは、教え方や学び方の工夫がたっぷり盛り込まれたことだ。前の学年で習った内容の繰り返し、討論会のように言葉での表現を促す問い、気づいたことを書き込めるコーナー。ノートのとり方の例を載せた本もある。
7. 子どもたちの知識が薄っぺらになっていることは心配だった。教科書の内容が豊かになったのはよいことだ。学びの幅も広げられるだろう。
8. 課題は、先生たちにこの教科書をうまく使いこなしてもらうことだ。
9. 日本の先生はまじめだ。「教科書は内容をすべて教えるもの」と思っている人は少なくない。だが、新しい教科書をこれまで通りに教えていては、たちまち授業はパンクし、落ちこぼれる子どもがたくさん出るかもしれない。
10. これからは、もっとやわらかく教科書を使う必要がある。基礎は大事にしつつ、子どもの理解

に合わせて、取り上げる内容を吟味し、考える時間をたっぷりとるようにする。教え込むだけの素材ではなく、子どもの気づきを引き出す道具でもある、と考えたい。

11．手取り足取りのヒントがたくさん載っている。でも本来、教える工夫を編み出すのは、教室で毎日子どもと向き合う先生たち自身だ。そのためには、先生たちへの応援も必要だ。最近、授業方法や教材を研究する暇もないほど忙しいという。先生の数を増やし、雑務を減らして、指導力を磨く時間を確保してゆかねば。

12．近年の教育現場は学力低下への批判を浴び、授業時間や教科書のページ数など、量をめぐる議論に目が向きがちだった。そろそろ「質の教育」をめざすことに本腰を入れるときだ。

13．分厚くなった教科書を、そのきっかけにしたい。

[コメント]

ゆとり教育からの脱却を目指し、小学校の教科書内容が3割増加したことに対する朝日新聞社の社説。正論と考える。

- 2010年4月1日 林明夫記 -